

平成30年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会 会議要旨

<開催日>

平成30年9月11日（水）

<場所>

新宿区役所本庁舎5階 大会議室

<出席者>

新宿区東京2020大会区民協議会委員（24名）

村岡功、鈴木章生、渡邊哲意、山田和男、田中稔、武山昭英、島田治、佐藤陽一、安齋正義、吉田淳子、今井康之、渥美淳子、小川定弘、勝部和彦、太田正一、的場美規子、李承珉、山本芳裕、久保広介、吉住健一、寺田好孝、鈴木昭利、酒井敏男、三井梨紗子

事務局（2名）

加賀美東京オリンピック・パラリンピック開催等担当部長（地域振興部長）、浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長

<開会>

【村岡座長】

皆さん、こんにちは。

本日はご多忙中のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ただ今より、平成30年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会を開催させていただきます。

次第に沿って進行を進めます。

次第の1番目ですが、部会における検討結果の報告から入ります。

まず本年におけるこの協議会の流れを振り返ってみますと、平成30年度第1回目の協議会が5月に開催されました。その際、今後の会議については部会を中心とした展開としていき、自主的な取組みの推進について、各団体さんで踏み込んだ検討をしていただくということになりました。

それに基づいて、5月、6月、7月と、各部会において検討がなされました。

本日は、その結果を協議会の場で各部会長よりご報告いただき、この協議会の中で共有したいと思います。

それでは、まずは東京2020大会普及啓発部会の検討結果について、渡邊部会長より報告をお願いします。

【渡邊部会長】

東京2020大会普及啓発部会のご報告をさせていただきます。

資料1「東京2020大会普及啓発部会における検討結果」をご覧ください。

まず、1ページ目の「はじめに」ですが、こちらでは部会の検討結果を報告書としてまとめ

るに当たって、部会長としての総括をしています。

これまで部会を主宰してきた私の思いとしては、この「はじめに」の部分の5段落目にもありますように、オリンピズムの理念を含めて、スポーツの楽しさ、伝統文化の尊さ、異文化交流の面白さ、障害理解の大切さなどといったことを、東京2020大会を契機として多くの方に知っていただくことにより、一人ひとりの心豊かな暮らしにつながったり、また、地域の絆や交流の創出につながるのではないかとこの報告書をまとめさせていただいています。

次ページ以降の取組みの方向性については、そこまで主体を限定することなくまとめています。というのも、主体を限定しすぎると、誰がやるのかというところの議論が出てきてしまひまして、なかなか発想が進まず、縛られてしまいます。自由な発想でもって、取組みの方向性や手法のイメージを挙げさせていただいています。

2ページ目の東京2020大会に向けた取組みの方向性というところでは、取組みの方向性を三つ提案させていただいています。

取組み1として、各団体の主体的な取組みにおける普及啓発の推進。

取組み2として、新宿区主催イベントと連携した普及啓発の推進。

取組み3として、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進を挙げています。

3ページ目の取組み1、各団体の主体的な取組みにおける普及啓発の推進ですが、各団体が日頃行っている活動において、大会への関連性を持たせることで、大会気運の醸成につなげていくものです。

具体的手法のイメージとしては、第一に、各団体が独自の普及啓発事業を実施することです。取組み例として、新宿区小学校PTA連合会の取組みを挙げています。こういった取組みは非常に素晴らしい取組みですので、こういったものがどんどん広がっていけばよいと思っています。

第二に、各団体が実施するイベント等について、大会のPRにつながる取組みを実施するというものです。各団体が既に実施しているイベントや行事において、東京2020参画プログラムの認証を取得したり、東京五輪音頭などを取り入れたりして、大会に関連性を持たせることで、行事そのものの活性化を図るだけでなく、大会に関心のある新たな層の参加を呼び込むというものです。

第三に、各団体が発行する広報媒体などのツールを活用したPRを推進するものです。各団体の有する広報媒体においても大会PRに協力することで、あらゆる方面からのPRが可能になると考えます。そういった取組み例として、商店街の街路灯へのフラッグバナーを掲げることを挙げていますが、注釈にあるとおり、大会エンブレムの使用の制約上、新宿区が事業主体となる必要があります。

4ページ目の取組み、新宿区主催イベントと連携した普及啓発の推進ですが、各団体がそれぞれに取り組んでいく中で、この報告書の8ページにもあるとおり、大会エンブレム等の使用の制約など、非常にハードルが高いものがあります。そういった中で、主催自治体である新宿

区の実践において力を結集させることで、より大きな効果が得られるものとして、この方向性を考えました。

具体的手法のイメージとしては、第一に、新宿区主催の気運醸成イベントにおいて、各団体がブース出展を行うなど、運営の担い手として参画すること。大会に向けてのイベントとなるとスポーツ体験が主となってしまいますが、それだけではない様々なコンテンツがあれば、イベントとしての魅力が増し、集客力の向上につながるのではないかと考えています。

掲載している写真は大会777日前記念イベントでの新宿養護学校のブース出展の写真です。バスボムづくりのコーナーですが、当日は大変人気でした。

第二に、各団体が発行する広報誌や、情報連絡のための会議の場など、ネットワークを活用してイベントのPRを行うこと。これは先ほどの取り組み1と重複するところです。

第三に、イベント開催日における会場の案内や場内整備など、各団体がイベント運営のための支援を行うというものです。規模の大きいイベントの場合、運営に多くの人員の力を要します。会場の案内や場内整備等の運営補助のための人的支援を行うということも考えられると思います。

5ページ目の取り組み3、ターゲットを明確にした効果的な普及啓発の推進です。こちらは、取り組み1と2をターゲット別に分類したものです。誰に対する取り組みかを明確にすることで、効果的に推進していくということを狙いとしています。

具体的な手法のイメージとしては、子どもたちや高齢者、障害者、外国人といった方々が挙げられます。外国人の方を引き込んでいくためにはどうしたらいいかというところで、例えば食といったものが考えられるのではないかと思います。オリンピックとなりますと、どうしてもスポーツをイメージしがちですが、オリンピックは同時に文化の祭典でもあります。世界中からあらゆる人が集まってくるイベントですので、スポーツだけにとらわれず、取り組みに幅を持たせていければいいと考えています。

部会での検討については、最初、各団体でどのような取り組みを主体的に行っていったらいいかという迷いもあって、なかなか議論が進まなかったのですが、それは先にお話ししたとおり、大会エンブレム等の使用の制約といったものがあつたためであり、新宿区の主催であれば、そういったハードルが大分下がりますので、新宿区のイベントに力を結集するという形でまとまり、もう既に色々なアイデアが出てきています。部会としては、できないことよりもできることに目を向けて、お互いに協力していきたいと考えています。

部会の報告ですが、各部会員において、何か補足等ございましたらお願いします。

【委員】※武山委員

今、部会長からお話があつたとおり、大会エンブレムの使用については規制があるのはよく存じていますが、商店会では、オリンピック・パラリンピックの東京招致の際に、商店会の街路灯を使ってフラッグバナーの掲出を行いました。区民の方だけでなく、新宿区を訪れる方にもすごいなと言ってもらえて、大分効果があつたように思います。今回は色々と制約が多いと思いますが、商店会と新宿区が協力して、大会エンブレム入りのフラッグバナーの掲出ができ

れば、大会に向けての盛り上がり大きな効果があると思います。商店会としては協力したいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

【渡邊部会長】

ありがとうございます。
ほかにいかがでしょうか。

【委員】 ※山田委員

今回、新宿区に東京五輪音頭講習会をしていただきました。内容が大分良かったようで、その後、地域ごとに練習をしたということも聞いています。今回、初めて東京五輪音頭を踊りましたが、来年につながるものがあつたと実感しています。

【委員】 ※島田委員

今回の部会の議論を通じて、かなり時間をかけて話が出てきたと思うのが、東京五輪音頭の取組みです。これから先の2年の中で、もっと広めていく仕組みをつくって、段々とグレードアップするような展開をしていければいいと思っています。

部会の中で話をさせていただいた、東京五輪音頭に関する提案について、ここで共有させていただければと思います。

最終的には、オリンピック・パラリンピックの会場である新国立競技場で披露できればいいと思っていますが、それができなかつたとしても、新宿区の中で、東京五輪音頭を世代を超えた一つのモチーフとしてクローズアップできればと考えています。例えば、新宿区の中でも色々地域がありますので、各地域が東京五輪音頭を習得しながら、最終的にはオール新宿でチームをつくって、それが新宿区の代表的なものになっていければいいなと思っています。

この2年間のうち、最初の半年間を練習的な位置付けにして、その後、一定期間練習を積み重ねて大会のようなものを開催することで、地域の活性化にもつながっていくでしょうし、大会に向けて頑張ることが、その後の良き思い出になるのではないかと思います。

先日のトーチ展では、1964年の東京オリンピックの聖火リレーに参加された方がいらっしやいました。非常に懐かしがられて見ていて、そのときに関わつたことが、その後、ずっと自分の記憶にも残り、それが色々なところにつながって、人々の記憶に残っていくものだと、そのとき感じました。今回のオリンピック・パラリンピックも、その気持ちがよりたくさんの方と享受できればいいなと思っています。そのため、東京五輪音頭を使って、記憶に残るような取組みにしていくということは、とても意味があることになるのではないかと思います、提案させていただいたものです。

【渡邊部会長】

ありがとうございます。

こういった色々なイベントの中にどのような形でオリンピック色を出していくかということ、宝塚大学の取組みをご紹介させていただきたいのですが、新宿区健康部健康づくり課と宝塚大学のほうが協定を結んでおり、体を動かすゲームを開発しました。子どもたちからお年寄りまでが楽しめる、体を動かすセンサーを使った風船割りゲームです。昨年度から始めている

のですが、今年度はその風船の中にメダル風船のようなものを混ぜたりして、そのメダルを割ると少し得点が高くみたいな風にオリンピック色を含めています。そうしたことで、イベントを盛り上げていこうと思っています。

ほかの部会の委員からも、もしご意見があればお願いいたします。

【委員】※的場委員

先ほど東京五輪音頭のお話が出ましたので、そちらのお話になります。部会でも申しあげましたが、区内で東京五輪音頭をPRする一つ的手段として、ドローン撮影はいかがかなと思って提案させていただきます。文化観光課で4月に区内の桜をドローン撮影をして、それをYouTubeに投稿する取組みを行っているのですが、同じように、新宿の名所と一緒に新宿御苑で踊ったりする姿を上空から撮影して、PRをしてはどうかと思います。ぜひご検討よろしくをお願いします。

【委員】※小川委員

新宿区立小学校PTA連合会では、新宿未来創造財団と協力して東京2020大会の啓発事業をやってきました。今年度の事業として、先ほど部会長からご報告のあった、取組み2の、新宿区主催イベントと連携した普及啓発の推進というものをこれから具体化していこうと思っています。恐らく、どこの自治体もできないような深い連携事例を次回ご提示できるかと思っています。

【渡邊部会長】

ありがとうございます。先ほどの報告の中で、外国人の取り込みというところのお話をさせていただきましたが、そのあたり、ほかの委員は何かご意見ありますか。実際、食を使ってはどうかというお話もありましたが、何かお考えがあればぜひお聞かせいただきたいのですが。

【委員】※李委員

新宿区には人口の12%に当たる外国人が住んでいますので、東京2020大会もぜひ外国人と一緒に盛り上がっていければと思います。先ほど、東京五輪音頭のお話がありましたが、オリンピックの期間中に日本人だけでなく、外国人住民や各国からの観光客も一緒に踊れるようなイベントがあれば、外国人も喜ぶし、まさに世界の人々が一つになれる。そういうイベントを実現できればと思っています。そのためには、外国人がボランティアとして参画できるような、あるいはイベントに参加できるような仕組みが必要だと思っています。

【渡邊部会長】

ありがとうございます。ほかにご意見のある委員の方はいらっしゃいますか。

ないようであれば、部会の報告は以上とさせていただきます。

【村岡座長】

ありがとうございました。

今回、いくつかご要望をいただいております。今後、新宿区のほうで前向きに検討していただくということになるかと思うのですが、現時点で何かお伝えできることはありますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ただ今、東京2020大会普及啓発部会のご報告をいただきまして、部会の中でも非常に多くのアイデアをいただいたところです。新宿区といたしましても、今年度より、2020年に向けて皆様と連携しながら一つひとつ実現していきたいと考えています。具体的なことは今の段階ではなかなか申し上げられないところですが、ぜひ一緒に2020年に向けた盛り上げをつくっていききたいと考えております。この検討結果報告書を踏まえて、今後区でどういうことができるということを検討していきたいと思っておりますし、この報告書の内容を2020年までにどれだけ形にしていけるかということが勝負かと思っております。皆さまと一緒に取組みのほうを進めさせていただければと考えています。

【村岡座長】

ありがとうございました。

吉住区長からも何かお話しいただけますでしょうか。

【吉住区長】

この間、部会の皆様には本当に熱心に議論していただきまして、ありがとうございます。

一つの具体的な動きがございましたので、お話をさせていただきますと、子どもたちの大会観戦の機会をつくりたいということで、新宿区立中学校PTA協議会と新宿区立小学校PTA連合会の代表者様とともに、教育長と私の連名の依頼文を携えて、組織委員会の会長代行にお会いいたしました。大会運営上、組織委員会はお金を集めなければいけませんので、チケットについては購入してもらいたいというような話が恐らく出てくると思うのですが、それについては前向きに検討していきたいと思っております。

ただ、観戦についてはどうしても競争になり、地元の子どもたちのための観戦の場所をとることができるかどうかということにかかってくると思っておりますので、今後も引き続き組織委員会への働き掛けを続けていきたいと思っております。

各団体様からは、大会に関連した色々なお話をいただいております。例えば、新宿区の地域登録文化財である百人町の鉄砲隊の皆様からはオリンピックの際に鉄砲隊の演武を披露したい、あるいは、新宿区にあるいくつかの神社の方からは大会の際に神輿を出せないかなど、様々なお話が来ています。そうしたお声に機動的に対応できる仕組みというものを新宿区でつくれないかということは今検討しております。

ただ、それは議決を得なければできないことであり、定例議会は年に4回しかありませんので、ある程度委任を与えられたような性質を持った、そうした機動的な財源を持った組織などをつくれないうことで、今考えさせていただいているところです。

大会まであと2年という残り少ない時間の中で、会計年度にとらわれず、企画が機動的に打てるような枠組みをつくれないうことを今後提唱していきたいと思っております。皆様には自由な発想で、自分の子どもはこういう参加であればできる、こういう思い出づくりだったら参加させたいなど、色々考えていただいて、それができるかできないかというのはまた周りの皆様と考えて結論を出していければいいと思っております。これからも自由な発想でご発言い

ただければ有難いです。

【村岡座長】

ありがとうございました。

ほかに、何か東京2020大会普及啓発部会の報告に対して、ご意見あるいはご質問などございますでしょうか。よろしいでしょうか。

東京2020大会普及啓発部会の渡邊部会長をはじめ、部会員の皆さん方には大変ご努力いただいて、感謝申し上げます。

それでは、続きまして、ボランティア部会の検討結果について、鈴木部会長より報告をお願いします。

【鈴木副座長】

ボランティア部会のご報告をさせていただきます。

資料2「ボランティア部会における検討結果」をご覧ください。

1ページ目の「はじめに」のところで、部会長としての総括をしています。

世界最大のスポーツの祭典であるオリンピック・パラリンピックですが、諸外国の例にあるように、多くのボランティアの存在がなくてはならないということが、多くの国民を初め、我々も承知しているところかと思えます。東京2020大会では、今月からボランティアの募集が本格的に始まりました。ボランティアに対する関心というのも高まっていると思っていますが、会場で観戦するのみならず、ボランティアとして、オリンピックやパラリンピックを支援する経験が一人ひとりの中にレガシーとして残り、大会後も地域の様々なボランティア活動が活発になっていくように、この大会をチャンスと捉えて、様々な観点から何ができるのかを色々と検討してきました。その方向性を今回はまとめてみたということです。

2ページ以降です。具体的な方向性を五つ、取組みの方向性としてまとめてみました。

東京2020大会普及啓発部会とも一部重なる部分があると思えますが、これらを総合的に推進していくことで、より一層、ボランティアの気運の醸成を図っていきたいと考えています。

まず、取組み1として、東京2020大会に係るボランティアへの参加の促進。

取組み2として、地域のボランティア活動・地域活動への参加の促進。

取組み3として、子どもたちのボランティア気運の醸成。

取組み4として、外国人のボランティア参加機会の創出。

取組み5として、障害への理解の促進。

この五つを挙げさせていただきました。個別具体的な内容に触れていきたいと思いますが、3ページをご覧ください。

東京2020大会に係るボランティアへの参加の促進ということですが、やはりボランティアとして大会に関わるというのは、大変貴重な機会になります。これら、十分にPRを行って、誰もがボランティアとして参加が可能になるような機会、これを情報提供していくということが大事なことになるかと思えます。

具体的な手法としては、第一に、新宿区をはじめ、色々な団体における広報誌やホームペー

ジ等を活用したPRがあげられます。

第二に、イベントを通じたPRということで、大会ボランティア及び都市ボランティアは9月中旬から募集が始まり、年内には締め切られてしまうので、本年中に効果的なPRをしていく必要性があります。ボランティア部会においては、参加を働き掛けるには、過去にボランティアを経験した方々にご登場いただいて、そういった方々の声を直接聞いてもらう機会をつくるのがとても重要ではないかという意見が出ました。そういったイベントの主催は新宿区ということになるかと思いますが、私も協力させていただきたいと考えています。

このイベントに関しては、区内にある様々なボランティア活動をしている団体に登場していただき、各団体のブースを設けて、そこでそれぞれの活動の紹介をしていただいてみてはどうかと考えます。これを通じて、東京2020大会へのボランティア募集のPRだけでなく、地域ではこんなにボランティア活動があるのだということを知っていただく機会にしてみてもいいでしょうか。

次に、取組み2、地域のボランティア活動・地域活動への参加の促進です。大会のボランティア募集の機会に乗じて、地域のボランティア活動を活性化させるというのが、この取組みの方向性です。

具体的な手法としては、第一に、新宿区主催のイベントにボランティア気運醸成の取組みを加えて実施していくというものです。これは、フェスをイメージしていただければよろしいかと思えます。そういったイベントの中で、ボランティアを紹介する、PRするということができればいいと思えます。

第二に、地域のボランティア活動・地域活動のうち、おもてなしに寄与する活動等について、東京2020大会に向けた取組みを位置づけるというものです。これは、既存の活動を何とかこの大会に関連したものとして、新しく組みかえていこうというものであり、例えば、地域の美化清掃や見守り活動といったものを東京2020大会と結びつけていこうという方向性です。

続いて、取組みの3、子どもたちのボランティア気運の醸成です。小・中学生など、若年層の子どもたちの記憶にこの東京2020大会がとどまるように、子どもたちへの気運醸成を進めていきたいということです。

具体的な手法としては、各団体や新宿区が実施するイベントや行事に、小・中学生を対象にしたボランティア大会のプログラムをつくり、そこに小・中学生に参加してもらうというものです。

続いて、取組み4、外国人のボランティア参加の機会を創出です。新宿区には、非常にたくさんの方々が住んでいます。そういった方々の参加の機会の創出ですが、具体的な手法としては、やはりPRがメインになるかと思えます。外国人コミュニティに対するPR、多文化交流イベントにおけるPRなど、外国人コミュニティがあるところもあれば、ないところもあるのですが、一つの面からPRするよりも、多面的に、あらゆる方向や機会を通じて、重層的にPRをしていったらどうかと考えます。

参加をしてもらうにしても、どうやって外国人の方に足を運んでもらうかということが、今

後、大きな課題になろうかと思えます。そのためにもPRは、まず一番最初の段階として重要です。

続いて、取組み5、障害への理解の促進です。今回、世界で初めて2回目の夏季パラリンピックが開催されます。これを契機に障害への理解を進めていきたいと考えています。

具体的な手法ですが、各団体や新宿区が実施するイベントについて、障害の有無に関わらず一緒に参画して、ボランティア気運の醸成を図っていききたいということです。

最後に、部会での検討については、回が進むにつれ非常に活発な議論が出てきました。やはり、子どもたちに何かいい思い出をつくってあげたい、外国人も含め地域住民と一緒に何かできないかという、要望や夢というものが多く出てきました。この議論の中で、ボランティアに参加することも大事なのですが、こういう機会を通じて、地域のボランティア活動の更なる活性化につなげていくという、大会のその先を見据えた議論がありました。この後、各部会員の方々から補足があると思えますので、それをお聞きいただければと思います。

私からは以上です。

ボランティア部会のほかの委員はいかがでしょう。

【委員】※勝部委員

新宿区立中学校PTA協議会では、明日の日本を担う子どもたちに今後の人生において出くわすであろう試練を乗り越えていける、まさに生涯の糧となるような感動を残す、そんな取組みを今検討させていただいているところです。

中でも、中学生には、より主体的に東京2020大会に関わりを持てる夢のようなチャンスを与えてあげられればと考えています。

例えば、18歳未満ではあるものの、2年後の中学生がボランティアとしてスタッフの一員となり、一緒に汗を流す多くの大人たちと、まさに一丸となって、大会をつくり上げるという一生ものの財産を体感してもらえたらと思う次第です。子どもたちが、世界中からいらっしゃるお客様に、おもてなしの気持ちを全身で表しながら、サポートをし、英語を話しながら笑顔でいきいきと躍動する姿は、世界中に日本の魅力を発信する一コマに十分なるでしょうし、とりわけ子どもたち自身が、決して他のイベントでは得られないレベルの感動に心を震わせる貴重な機会になると確信しています。

では、大会本番でのボランティアのチャンスを獲得するための今後2年間の具体的な活動案ですが、フィールドワークにより地域の魅力や課題を発見したり、トレーニングにより新宿にいらっしゃる外国人観光客を道案内できるスキルを身につけることを促すというものです。具体的には、新宿区内の約5キロの東京2020大会の実際のマラソンコースにおいて、英語のネイティブスピーカーのリードのもとに、世界中からのお客様に対するおもてなしやコース近隣の見どころの紹介や、案内体験を行います。それらを通じて、区立中学生の大会気運及びボランティア意識の醸成を図るとともに、本ボランティアによって得られた新たな発見を通じて、自分たちを育ててくれた我がまち新宿を愛する気持ちを刺激しながら、子どもたちが国際社会、異文化への理解を深め、ひいては語学学習への意欲を向上させていくことを狙いとしています。

現在、新宿区及び新宿区教育委員会の皆様にご相談させていただいているところですが、二度とはないであろう我がまち新宿でのオリンピックですから、引き続き本協議会委員の皆様の支援を賜りたく、何とぞよろしくお願い申し上げます。

【鈴木副座長】

これを受けて、ほかの委員から何かご意見等ありますか。

【委員】※小川委員

私は、ラグビーワールドカップのボランティア募集要項を見た際、親子で参加できるようなボランティア内容がなく、子どもが排除されてしまっているような感じで、非常に残念に思いました。東京オリンピック・パラリンピックのほうも同じような内容になるかと思いますが、子どもの頃からボランティアをするのが当たり前だという教育をしていく必要があると思います。ですので、今できることというのは、新宿区のイベントの中で、子どもや親子で、ボランティアマインドを醸成することができるような仕組みを取り入れるということです。中高生も積極的に参加できるような環境をつくっていただければと思います。

【鈴木副座長】

ありがとうございます。もっと小中学生の子どもたちには、社会と自然に関われる場を提供してあげて、こういった大きなイベントを通じて地域社会と積極的に関わってもらうことも大事だと思います。大学の単位と引き換えに大学生に対するボランティア参加を促すというような話も一部の報道で出ていますが、参加したらご褒美あげるというようなことでは少しどうかとも思いますが、教育的なプログラムを用意するなど、子どもたちに対して大人がそういう機会をきちんと提供していくということが大事ではないかと思えます。行政だけでなく、関係者みんなでそういった検討をしていきたいと思っています。

大人も子どもも含めて、広くボランティアの人材育成ということは、新宿区や新宿未来創造財団のほうで取り組んでいると思いますが、この辺の現在の取組み状況はいかがでしょうか。

【委員】※佐藤委員

この会議において昨年度ご紹介させていただいた新宿未来創造財団の地域人材ネットワークですが、ボランティアをしたい方が登録できるだけでなく、ボランティアを受け入れたい方に紹介するという機能もありまして、相互紹介のシステムになっています。

まず、登録者ですが、現在も増えて続けており、現段階では929人の方にご登録いただいています。活動分野としては、アーティストからスポーツ、語学の通訳要員といった形で、様々な生涯学習やスポーツの分野においてご活動いただいています。

そして、登録された方々に対して、年6回のパワーアップ講座をご案内しています。ボランティアとして人々の中に入っていくためのコーチングの講座や、スポーツ等の関わりの中で障害者の方を理解していただく講座、各地区の地域活動をご紹介するような講座などを設けています。このような形で、引き続き人材育成を進めていきたいと思っています。

最後に、こういった人材を活用していただくということがあります。新宿区でボランティアイベントを開催するという運びになれば、ぜひそういったところで地域人材ネットワークのシ

システムをご紹介させていただき、ボランティアの方々の活躍の場を広げたいと思っています。

【委員】※李委員

学生ボランティアや子どものボランティアなど色々ありますが、外国人はボランティアとして様々な役割をこなすことができます。外国人の道案内から自国選手の通訳まで色々できます。外国人観光者にとっても、緊急事態が発生した際に自国のボランティアがいれば、少しは心強く感じるのではないのでしょうか。やはり、時間がある、積極性のある人がボランティアになるというのではなく、日々ボランティアを育成する必要があると思っています。特に、外国人ボランティアは、日本の歴史や東京の地理などを日々勉強しないと、的確な対応をとることができない場合があります。ですので、ボランティアとしての活動をしていただきながらも、その能力を育てていく必要があるのではないかと思います。

また、外国人には言葉の壁の問題があります。ボランティア募集情報などが的確に届かない場合もありますので、やはり行政から積極的にその外国人団体や外国人コミュニティに関わって声を掛けるということが求められると思います。恐らく、外国人の中には、ボランティアに参加したい、何らかの形で東京2020大会に関わりたいという希望を持っている、そういうボランティアとして参画したい、あるいは2020オリンピックに関わりたいという希望を持った方がいると思います。しかし、どのようにすればいいかというのが分からない方が多いと思いますので、そういった方々に門戸を開くような活動をする必要があるのではないかと思います。

【鈴木副座長】

今の委員のお話ですが、これまでの既存の情報提供ではなく、もう一步踏み込んだ積極的なPRが重要だというふうに理解させていただきました。ありがとうございます。

今、外国の話も出てきましたが、障害の関係でいかがでしょうか。

【委員】※今井委員

障害理解ということに関してですが、今回の東京2020大会で、世界で初めて2度目のパラリンピックが東京で開催されるということになります。オリンピック・パラリンピックの成功というのは、インクルージョン教育がどれだけ推進されていくかということにかかってくると言われていますが、そういった中で、ボランティア部会においても、障害の理解促進を進めていくということを取組みの一つに掲げていただきました。

報告書の中で、「ダイバーシティ・ウォールパズルアート」という取組みが取り上げられています。これは、今年の4月に新宿コズミックスポーツセンターで行われたレガスマつりの中で、障害者の方だけではなく、高齢者、子どもたち、外国人の方など、様々な方々が一緒になって一つの絵を完成させようというような多様性のある取組みとして実施させていただきました。絵心はあまり関係なく、そこに参加をしてパズルに絵を描き、そして一つの大きな絵を完成させるというものです。各地域イベントの中でもこういう取組みを展開しているのですが、障害への理解の啓発活動であったり、様々な方々が一緒になって作品をつくる共生社会の実現に向けての取組みを今現在させていただいているところです。

やはり、東京2020大会の気運醸成を図るには、日常的に目の触れる場所で、気運を醸成させ

るような視覚的効果も狙っていかなければならないというようなことが考えられるかと思えます。例えば、東京五輪音頭を地域イベントの中で行っていくということも、なかなか新宿区の力がなければできないことで、地域センターまつりで東京五輪音頭を必ず踊るなど、そういった日々の日常の中で、東京2020大会がイメージできるような仕組みづくりをしていただければと思います。

最後に、近隣区では、公衆トイレをアートで飾ってきれいにしながら、日本の魅力を発信するというようなことを行っています。そういった取組みが新宿区でもできれば、来ていただいた方々が大変気持ち良く施設を使うことができるのではないかと思います。

【鈴木副座長】

ありがとうございました。障害の有無に関わらず、アートを一緒に制作して、障害を理解する。それを東京2020大会に向けてもっとできないかということを検討する。とても良い機会、提案になるかと思えます。様々な課題はあろうかと思えますが、そういった取組みが日常的に目に触れるような形になれば、大会に向けての気運が醸成されていくのではないかと思います。

それでは、ボランティア部会の報告及び意見交換を終わりたいと思います。

【村岡座長】

委員の皆様方、本当にありがとうございました。

ただ今二つの部会の報告が終わりました。

最後に、各部会からの報告を受けまして、私から簡単に総括をさせていただきたいと思えます。東京2020大会普及啓発部会としては、各団体がそれぞれに、大会に向けて取り組んでいくということに合わせて、新宿区主催の大会500日前記念イベントをはじめとしたオリンピック・パラリンピック関連イベントに向けて今、結束し、より大きな魅力的なイベントづくりを進めていこうという方向性を部会としての一つの大きな結論として導き出させていただきました。

また、ボランティア部会としては、大会ボランティア及び都市ボランティアへの参加の促進を図りつつ、そこからさらに、地域のボランティア活動や地域活動への参加の促進につなげるという、大会後を見据えた検討をしていただきました。そして、新宿区の大会関連イベントにおいて、ボランティアの活動の場を創出していくという提案もいただきました。

東京2020大会の普及啓発についても、ボランティア気運の醸成についても、各団体での取組みはもとより、新宿区のオリンピック・パラリンピックイベントに各団体のノウハウやパワーを注ぎ込み、成功に導くということも大きなミッションになるのではないかと思います。

まさに、ここにおいて、皆様方が一つの目標に向かって団結していくということで、この協議会を設置した目的に合致した方針が示されたと思っています。それを核として、大会の成功と新宿区の更なる発展に向けて、全員で取り組んでいきたいと思います。これを申し上げ、まとめの言葉とさせていただきます。

最後に、本協議会の特別アドバイザーでもある三井梨紗子さんからもご発言をいただければと思います。よろしくお願ひします。

【三井特別アドバイザー】

まず、オリンピックに出場したことがある元選手という立場から、東京都の中心である新宿区の協議会委員の皆様が東京オリンピック・パラリンピックに向けて、非常に熱心な活動をされていることに、本当に大変感謝をしています。ありがとうございます。

私自身は新宿区のイベントに、非常にたくさん参加させていただいており、新宿区の地域の皆様と交流を持たせていただいているのですが、終わった後に、改めて東京オリンピック・パラリンピックが来ることがすごく楽しみだという手紙をいただいたり、声をいただいたりします。私自身は、オリンピックに出場した元選手として、オリンピック・パラリンピックに向けて選手はこういうことをやっているのだということを発信できる場をいただけていることがとても有難いです。

先日も、ジャカルタで行われたアジア大会に、JOCの広報という立場で行ってきました。選手の時ときには気づかなかったことがたくさんありまして、ジャカルタでは、市民や観客、ボランティアの方々が、アジア大会を盛り上げてくれて、それが大会を成功に導いたと感じました。また、ボランティアの方々の笑顔や声掛けといったものを、選手だったときよりも強く感じることができました。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、皆様方が今取り組んでいることは、新宿区にとっても、大会にとっても、日本国民にとっても意義のあることだと思いますので、これからも大会に向けて頑張ってくださいたらうれしいですし、私も何かしらでお手伝いできたらと思いますので、よろしくをお願いします。

【村岡座長】

ありがとうございました。

それでは、部会における検討結果に基づき、それぞれにおいて、大会に向けた取組みを推進していくということとともに、そうした取組みの進捗状況については、今後の協議会で情報共有の場を持つこととしたいと考えています。

次に、次第の2、区からの情報提供についてです。

前回の5月の協議会から半年近く経ちましたので、大会に関する新しい動きも出てきたかと思えます。大会に関する情報共有というのは、この協議会の設置目的の一つでもあります。各団体の今後の取組みにも関わってくるかと思えますので、大会に関する情報提供を議題の一つとさせていただきます。現時点における大会に関する情報をこの場で共有したいと思えます。

それでは、事務局からご説明をお願いします。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

それでは、事務局からご説明をさせていただきます。

資料3「東京2020オリンピック・パラリンピックの気運醸成に関する区の取組み」をご覧ください。

先日、6月9日に開催した東京2020オリンピック・パラリンピック開催777日前記念イベントのご報告です。新宿区立愛日小学校をメイン会場として、牛込笹笥区民ホールを第二会場として開催しました。

来場者は2,700名、実施内容を簡単にご紹介させていただきますと、第一会場の愛日小学校ではスポーツ体験教室として、新宿区内で開催される競技である陸上やサッカーを中心とした体験教室を行いました。また、ボッチャ体験も行いましたが、今回はサイバーボッチャとして、プロジェクターやセンサーなどを用いて近未来的な雰囲気のボッチャ体験を行いました。こういったことも通じて、パラリンピック競技の新たな魅力も感じていただけたのではないかと感じています。

それから、こうしたスポーツ体験だけではなくて、エスコートキッズ体験や取材の体験といった、実際の大会運営の際にもあるような体験も提供しました。

第二会場の牛込筆筒区民ホールでは、中村真衣さんや斎藤あや子さんといったオリンピック・パラリンピアンの方の講演会、小中学生によるコンサートなども実施しました。

また、愛日小学校の会場の中では、新宿養護学校のバスボムづくりの内容も出展していただいたところでした。

続いて、8月29日から9月9日までの間に、伊勢丹新宿店で実施したトーチ展についてです。

現在、集計中ですが、およそ12日間で2,000人を超える方のご来場がありました。こちらは、駐日ギリシャ大使館、在日ギリシャ商工会議所との共催という形で開催させていただきました。オリンピックの聖火リレーが始まった1936年ベルリンオリンピックのトーチをはじめとして、全部で36本のトーチを展示しました。

続いて、東京五輪音頭講習会についてです。こちらは、6月から7月にかけて区内5か所で開催しました。こちらは、四谷地域の「しなの会」という踊りのグループの方にご協力をいただき、区職員が講師を務めました。全部で5回、300名を超える方にご参加をいただきました。東京五輪音頭の振り付けは確かに難しいのですが、およそ1時間ぐらいの講習で、参加者の方はおおむね踊れるようになっていたと思っています。来年の夏まつりに向けて、東京五輪音頭がもっと地域で展開されるように取り組んでいきたいと考えています。

続いて、新宿フィールドミュージアムについてです。こちらは、所管課から説明させていただきます。

【文化観光課長代理】

新宿フィールドミュージアムについてご報告します。

これまでの経緯を説明させていただきますと、新宿区では、区長の附属機関として新宿区文化芸術振興会議を平成22年度に設置し、新宿区における文化芸術振興について色々ご審議をいただいているところです。会長は、東京大学名誉教授、大原美術館館長、名誉区民でもあられる高階秀爾先生にお務めいただいているところです。

この新宿区文化芸術振興会議の提言に基づき、新宿区における文化芸術振興の具体的な取り組みとして、新宿フィールドミュージアムが平成23年度から実施され、今年で8回目の開催となります。

新宿では、年間を通して多彩な文化芸術イベントが開催されています。今年は9月1日から11月30日までの3カ月間を文化月間として、区内全域で繰り広げられる音楽・芸術・演劇・伝統芸

能・パフォーマンス・まち歩き・歴史探訪など幅広いジャンルのイベントを集約・発信します。新宿では音楽ホール、美術館、劇場、ライブハウス、ギャラリー、博物館などの文化芸術施設に恵まれ、コンサート、美術展、演劇、ライブを始め、多彩なイベントが民間ベースで活発に開催されています。

しかしながら、これまで、個々のイベントでは、主催者が小さい団体で、活動基盤が弱く、PR活動が足りず、十分な集客が得られていない残念なイベントもあることから、区内のイベントを集約し、一括で発信していくことで、各イベントの集客性を高め、各主催者の活動基盤を強化し、更なるイベントの活性化を図っていくことで、新宿区における文化芸術活動を活性化し、まちの魅力を高めて、新たなにぎわいを創出していこうということで、継続して取り組ませていただいているところです。

今年のお取り組み内容ですが、例年どおり、イベントを集約して発信するというところを行いますが、また新たに、本事業のコアとなるイベントを開催します。これまでの取り組みの中で、フィールドミュージアムとして様々なイベントが開催されているため、イベントとしてのイメージがあいまいになりがちであるということが新宿区文化芸術振興会議でも指摘されているところです。そのため、東京2020オリンピック・パラリンピックやそれ以降に向けて、顔となるイベント、発信力のあるイベントの必要性が議論されました。その具体的な形が、この「-shin-音楽祭」です。

新宿では、かつて東京厚生年金会館、新宿コマ劇場など、2,000人規模の音楽の拠点となる施設があり、多くの観客を引きつけてきました。また、1968年から94年までは、10月頃に新宿音楽祭というイベントも開催されていました。こうした歴史的な背景や、新宿区はライブハウスが23区で一番多いという特性を踏まえ、新宿文化センターを会場とし、近隣のライブハウスと連携し、多彩なアーティストのライブが楽しめる都市型音楽フェスとして開催します。

日時は10月6日土曜日、11時から20時まで、出演は、Ovall、環ROY、ミツメ様ほか、20組のアーティストを予定しているところです。

それから、ライブハウス連携企画として、新宿LOFT、Jazz Spot Jほか、いくつかのライブハウスにご協力いただき、ライブハウスでフィールドミュージアム連携企画を開催していただく予定です。

詳細については、フィールドミュージアムの公式ガイドをご覧くださいと思います。

さて、新宿フィールドミュージアム・アクション2020ですが、こちらは新宿区文化芸術振興会議において、東京2020オリンピック・パラリンピックとその後を見据えた形での新宿区における文化芸術振興や、オリンピックの文化プログラムの内容などについて、議論を進めてまいりました。新宿ならではの文化プログラムとして、国内で活動する様々な文化芸術団体が参加して、新宿の文化芸術を集約して発信していく新宿フィールドミュージアムの更なる強化を図ることを新宿区文化芸術振興会議で議論しました。その結果、アクション2020を定めて、行動目標を設定し、2020それ以降を見据えて内容を充実するといった方向性が示されたところです。

内容としては、プログラムの拡充、開催期間の拡張、誘導の仕組みづくりを行うという三つ

の柱がございます。そして、それぞれに指標を設定し、例えば、プログラム提供数を2017年度の210本から、2020年度には300本まで増加させることを目標にしています。このように具体的な目標を設定し、新宿フィールドミュージアムの活性化を図っていくところです。説明は以上です。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

続いて、今後の予定についてです。

まず、11月3日にボランティアについてのイベントを開催したいと考えています。先ほど鈴木副座長からもご紹介がございましたが、9月中旬から12月の中旬にかけて、大会ボランティア及び都市ボランティアの募集が行われます。こうしたボランティアの募集を広く周知し、参加を促進するためにイベントを開催します。

イベント内容としては、実際に過去の大会にボランティアに参加された方にご登壇いただき、経験談をお話いただくということを考えています。あわせて、新宿区内で活動している地域のボランティア活動、地域活動のPRなどもこのイベントの中で実施していきたいと思っています。

会場は東京都健康プラザハイジアです。100名規模の開催を予定しています。

それから、今後のイベントとしては、来年の3月3日に大会500日前記念イベントということで、西新宿小学校をメインの会場として大々的に開催したいと思っています。

実際のコンテンツはこれから検討に入りますが、本日いただいたご意見を踏まえながら、各部会員の皆さんともご相談をして、内容を検討していきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

それから、新宿シティドレッシングですが、東京2020大会に向けた気運を高めるため、区施設の外壁などに、大会エンブレムやマスコットなどで装飾を図っていきたくて考えています。

それから、東京オリンピック・パラリンピック開催推進会議ということで、こちらは庁内の会議ですが、スポーツの振興やボランティアの育成、大会時の輸送による交通規制の対応など、各課題について庁内において調整を図っています。

区の実施については以上です。

続いて、東京都と組織委員会の動向についてご報告します。

まず、大会2年前となる7月24日より、「2 Years To GO」として様々な企画を進めているところです。新宿区内においても、東京都庁やNTTドコモ代々木ビルなどの建物がライトアップされています。

次に、大会の公式チケットについてです。チケット販売の開始予定ですが、オリンピックは2019年春、パラリンピックは2019年夏からチケットの販売が開始されます。基本的にはインターネット上での販売となっており、その前段階として、チケットの購入に必要なID登録が既に2018年より開始しています。

チケットの特徴ですが、グループ向けのチケットの設定などもされているほか、学校連携観戦プログラムの実施、車いすユーザー向けのチケットの実施、ホスピタリティプログラムの実

施といったところが検討されています。

続いて、東京2020NIPPONフェスティバルです。こちらは文化プログラムになりますが、2020年に入ってから大規模に行っていこうという取組みです。フェスティバルの盛り上げを全国に波及させるべく、東京を中心とした大規模な文化プログラムを計画しているということであり、2020年の4月頃には、大会に向けた盛り上げのイベントということで、無形文化遺産・舞台芸術の融合による世界初の舞台を東京で行うということです。オリンピック直前の7月頃には、日本文化を通じて様々な人々が交流するようなイベントが、パラリンピック直前の8月頃には、共生社会の実現をテーマとしたイベントが実施される予定です。2020年5月から7月は、東北各県と連携した文化プログラムを展開するという事です。

こうした組織委員会が主導するプログラムについて、自治体として連携できる部分は連携していきたいと考えています。

続いて、大会マスコットについてです。昨年12月から今年の2月にかけて小学生による投票が行われ、2月28日に大会マスコットが決定したところです。その後、ネーミングなどを経て、7月22日に正式デビューしました。マスコットについても、エンブレムと同様、今後活用を図っていきたいと考えています。

続いて、東京2020大会時のパブリックビューイング及びコミュニティライブサイトについてです。画面を皆で見て観戦するというのがパブリックビューイングであり、観戦だけでなく、例えばステージイベントやスポーツ体験、飲食の提供などが合わさった複合的なイベントがコミュニティライブサイトと位置づけられています。コミュニティライブサイトについては、実施主体は地方自治体に限られていますが、パブリックビューイングについては、教育機関や町会・自治会なども実施できます。

大会のパブリックビューイングについては、2020年の実施に向け、区として企画していきたいと考えています。パブリックビューイングについては、平成31年6月頃に募集要項が公表されることになっていきますので、もし地域の中で開催の希望がありましたら、ぜひ当課で調整させていただきたいと考えています。

続いて、マラソン及び競歩コースについてです。マラソンコースですが、スタート直後とゴールの直前で非常に標高が盛り上がっているところがございます。こちらの標高の最高地点が、西富久の交差点のところになっており、勝負の綾となる場所ではないかと期待しています。

続いて、大会ボランティア及び都市ボランティアの募集要項についてです。前回の協議会では募集要項案をご紹介させていただいたところですが、本日は募集要項の最終版です。募集人数は、大会ボランティアが8万人、都市ボランティアが3万人、合わせて11万人というところへ変更ございません。

前回からの変更点ですが、各地域でボランティア活動に参加されている方々に積極的にご応募いただきたいということで、都市ボランティアの枠の中に都内区市町村からの推薦を検討するということが追加されています。詳細はまだ東京都のほうから示されておきませんが、今後、発表されてから、11月3日のボランティアイベント等にて詳しくご紹介させていただこうと考

えています。また、活動期間中における滞在先から活動場所までの交通費相当が支給されることとなったのも、今回の変更点です。

続いて、大会の競技日程です。現在のところ、オリンピックのみ発表されています。パラリンピックについてはまだ発表されていません。

新宿区内では、新国立競技場にて7月24日に開会式が行われた後、7月31日から8月9日までの間、マラソンを含め、陸上競技が開催されます。また、8月7日の11時に女子サッカーの決勝が行われます。

続いて、聖火リレーについてです。先日、都道府県別の実施日が発表され、福島県をスタートとして47都道府県を回り、7月10日から7月24日までの15日間で東京都内において聖火リレーを実施するということになりました。都内全62市区町村を回るということで、具体的なルートは検討中であり、おおむね年内にはその案が示されるのではないかと考えています。

続いて、2020 TDM推進プロジェクトです。TDMは交通需要マネジメントという意味ですが、オリンピック・パラリンピックの開催期間中、例えば選手の輸送や関係者の輸送、観客の移動などにより、公共交通機関や道路が非常に混雑するのではないかとという予測がされています。

そうした交通需要への影響により、道路、鉄道の混雑が深刻化するということで、道路交通については休日並みの交通環境を目指し、鉄道については現在と同程度のサービスレベルを目指すという目標が掲げられています。今後のスケジュールですが、輸送運営計画のバージョン2が今年度末に出されます。そこから、第2段階として、交通需要をマネジメントしていくためのアクションプランを作成していくということになっています。具体的な取り組みとしては、時差ビズやテレワーク、物流では配送時間の変更やルートの変更などのご協力をお願いすることによって交通需要をマネジメントしていこうというものです。

TDM推進プロジェクトには一般市民向けというものがあり、こちらの検討に入るのが、平成31年度の9月から10月頃となっています。こちらは、区民の皆様の生活への影響が恐らく大きい部分だと思いますので、内容の検討が進んだところで、皆様へ情報提供をさせていただきたいと考えています。

続いて、持続可能性に配慮した運営計画第二版です。こちらは、国連が定めているSDGs、Sustainable Development Goalsを踏まえて策定しており、「気候変動」、「資源管理」、「大気・水・緑・生物多様性等」、「人権・労働、公正な事業慣行等への配慮」、「参加・協働、情報発信」という五つの要素が盛り込まれた計画です。

続いて、新国立競技場の整備スケジュールです。おおむね屋根の骨組みが付け終わったというような状況であり、最近はまだ外側の足場が外れてきています。来年の11月に竣工ということで、その後、JSCから組織委員会のほうに引き継がれ、オリンピックのスペックに改装するオーバーレイ工事を組織委員会が行う予定です。

説明は以上です。

【村岡座長】

ありがとうございました。

何か委員の方々からご質問、あるいはご意見はございますでしょうか。

【委員】※的場委員

新宿フィールドミュージアムについてですが、9月1日に新宿高島屋の2階JR口の特設会場にてオープニングイベントが行われました。ステージでは、吉住区長がフィールドミュージアムの魅力をお話してくださいました。フルートやジャズピアノの演奏が楽しめましたし、ワークショップではバルーンアートやアクセサリーづくりなど様々な体験ができる、非常に楽しいイベントでした。

来場者は2,143名だったそうです。本年度は3か月間を文化月間としていますので、ぜひイベントの情報を皆さまで拡散していただけたらと思っています。

また、今回の会場ですが、ちょうど新宿高島屋とNEWoManの間であり、非常に人通りの多い会場となっていて、こういった場所でオリンピック・パラリンピックの展示やイベントなどができれば、人も集まって、注目が高まるのではないかと考えていますので、ぜひこういった会場もご利用いただければと思っています。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

ご意見、ありがとうございます。区のイベントは今まで区施設で多く行ってきたのですが、今回、トーチ展を伊勢丹新宿店で行わせていただき、12日間で2,000人を超える来場がありました。伊勢丹新宿店を訪れた方が、たまたまこういったイベントをやっているということでご来場いただいたということも非常に多かったので、こういった民間の施設を活用したPRについては、今回、非常に手ごたえを感じています。今、ご提案のありました場所を含めて、今後検討していきたいと思います。

【委員】※的場委員

先日の大会777日前イベントですが、大変盛り上がり、楽しませていただいて有難かったです。ただ、一つ気になったのが、熱中症対策についてです。この日は32度という、東京都心で初の夏日となった日でもありました。オリンピック・パラリンピックが猛暑の中で開催されることが予想されますが、区としては、熱中症対策などはどのように考えていらっしゃいますか。

【浅野東京オリンピック・パラリンピック開催等担当課長】

一番心配なのは、新国立競技場の周りがフェンスで囲まれるような形となり、チケット確認や手荷物検査で長い行列ができると思われます。会場周辺と最寄り駅をつなぐ動線においてどのような暑さ対策をしていくのか、東京都や組織委員会が具体的な対策を出していない状況ではありますが、今後、詳細を調整していきたいと考えています。

東京都では、例えばミスト噴射装置をつけることなどを考えているようですが、どこかに休憩所を設けるなど、様々なことが考えられると思います。こういったのをやっていけるか、東京都や組織委員会と情報共有しながら考えていきたいと思っています。

【村岡座長】

ありがとうございました。

ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、区からの情報提供に関しては、以上とさせていただきます。

では、これもちまして、平成30年度第2回新宿区東京2020大会区民協議会を閉会します。

ありがとうございました。

<閉会>